小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

小豆島町立星城小学校

関連項目：検証改善プラン②

職員会における共通理解の場の設定

目的

個々の児童の課題に担当職員だけで対応して抱え込みにつながるようなことを防止し、全職員で全児童にかかわろうという協力体制を今まで以上に構築するために、共通理解・共通実践する時間と互いの情報交換の場をしっかりと確保する。

内容

● 職員会議における共通理解の場の充実

全職員の共通理解・共通実践の推進をめざし、昨年度以上に生徒指導の情報交換の場をたくさんとり、個々の課題をもった児童への対応を全職員で共通実践できることをめざしている。最低でも週１回は時間を確保し、情報交換している。

● 点検項目を用いた教職員の自己評価（望ましい星城っ子の様子）

児童の望ましい生活態度をまとめた「望ましい星城っ子の様子」に照らし合わせながら、実現がどれくらいできているか、毎学期末に指導の振り返りをするようにしている。教職員個々の振り返りをとりまとめ、実現状況を数値化し、次学期への課題を話し合えるようにしている。

成果

教職員の指導に一貫性が保たれない場合が見られたため、教職員それぞれの認識に誤差があることが分かった。それを埋め合わせるための共通理解を図る時間が確保でき、少しずつ指導の一貫性が図れるようになった。また、課題を抱える個々の児童の状況を全職員で把握できるようになり、全職員で個々の児童への声かけや指導ができる雰囲気が高まった。

関連項目：指導体制プラン①

生徒指導をコーディネートする

目的

検証改善プランで見えてきた生徒指導面の課題や共通理解・共通実践のための課題について、生徒指導担当だけでなく、多面的な立場の教員で構成される生徒指導推進部会を開くことにより、生徒指導におけるさまざまな課題へのより具体的かつ効果的な手だてを検討できるようにする。さらに、関係諸機関や家庭、地域との連携についても、課題に応じて対策を検討する。

内容

● 生徒指導推進部会の編成と役割

今まで組織されていなかった生徒指導推進部会を新設し、毎月の生徒指導の目標の設定や具体的手だて、生徒指導上の問題点や不登校傾向の児童への対応等について検討する。生徒指導担当だけでなく、教育相談担当、学力進路支援担当、さらには、低中高の各学年団長で構成し、それぞれの立場から多面的な意見を出し合い、より具体的で効果的な手だてや方策を検討する。だれがどう動くのか、どんな諸機関と連携するのか、今後どこをめざすのかなど、チームで動ける体制づくりをめざし、話し合いを重ねている。

成果

職員会で提案するまえにじっくり検討することで、具体的で効果的な方策が職員会で提案でき、よりスムーズに会が進められるようになった。職員会では話し合いにくい意見も出しやすく、共通理解も図りやすくなった。